

出題の意図と解答の傾向

【出題の意図】

マイケル・サンデルの『それをお金で買いますか―市場主義の限界』（鬼澤忍訳、早川書房、2012年）の第3章「いかにして市場は道徳を締め出すか」から出題した。本書は、あらゆるものを市場で売買できるとみなす「市場勝利主義」に反して、金銭的価値に還元できない（してはならない）公共心などの「非市場的価値（規範）」を重視する。

世間では、非市場的価値をどのように市場に組み入れるのかについて、さまざまな試みがなされている。身近なところでは、「SDGs」や「エシカル」といった非市場的価値を購入動機として利用して消費を促す商品を目にすることも多いだろう（これは今回の出題の文脈とは異なるが）。経済学・経営学が価値をめぐる人間の行動・社会の仕組みを扱う学問である以上、受験生は入学後に経済学・経営学の問題として（市場的価値のみならず）非市場的価値について考える機会がたびたびありえよう。

しかし経済学・経営学の門を叩く前に、「市場的価値が非市場的価値を腐敗させる」という非-経済学者の直観について思考を巡らせる機会があってもよいだろうと考え出題した。

本問では、著者の言い分を理解し、それに対して回答者自身の見解をどのように提示し説明できるかを問うた。

設問1

設問2での意見を述べる前に、課題文を読解できているかをみるのが狙い。

金銭的インセンティブが道徳的な腐敗をもたらしうるということが説明されるとよい。課題文で挙げられているように、公共問題に対する市民的義務が締め出されること、ボランティア活動がお金のための仕事に変質する（市民的献身在り締め出される）こと、道徳的義務感が不可逆的にむしろ壊れてしまうことなどが挙げられるとよい。

【解答の傾向】

おおむね本文の記述を理解して、本文で使われている用語、表現を用いて説明することは比較的出来ている回答が多かった印象。

一方で、「非市場的価値（規範）」や「金銭的インセンティブ」の説明をするのみで、「腐敗させる」「蝕む」「弱める」「締め出す」「変質させる」「排除する」「勢いをそぐ」といった「作用」を説明していない回答も見られた。

設問2

課題文の主張は「社会的に有益な行動への促しのために金銭的インセンティブを導入すべきではない」というものであるが、これを踏まえて受験生自身の見解を問うた。回答はもちろん課題文の主張に反対するものであってもかまわない。

身近な例と関連付けて説明することで、前提となる議論を咀嚼し自身の主張に説得力を持たせることを求めた。

【解答の傾向】

・設問文の「社会的に有益な行動」が、本来非市場的価値によって支えられてきたものであり、それゆえにそこに「金銭的インセンティブ」を導入することの是非が問題となることを捉えていない回答があった。雇用関係などの本来金銭的な結びつきで行われている事例を用いた回答があった。「金銭的インセンティブは効率が悪い」といった、あくまでも市場的価値の範囲内で議論している回答もあった。

・ボランティア活動に慣れ親しんでいることがうかがえる半面、報酬付活動への経験が多いためか、社会的に有益な行動を促進するのであれば、報酬付であっても構わないことを疑わずに持論を展開しているケースが目についた。そうしたケースは、報酬付の行為の持続性や人びとの公共心への影響、課題文で展開された「金銭的インセンティブ」を導入するということで起きている・起きうる作用（サンデルが懸念していること）への考察が不足している。

・自身の経験を課題文の主張に沿って分析・考察し、分かりやすくまとめている文章もあった反面、設問1のように該当箇所を抜き出すことはできるが、その意味まで咀嚼できていなかったり、やや思い込みが強かったりする回答も見られた。

・基本的な書き方として、是非を問う設問であれば、まずは是か非か（あるいは条件付）を明確にし、その理由について身近な例を挙げながら、本論の展開に沿って説明することが読む側からすると分かりやすい。是非のいずれにせよ、自身の経験を元に展開すること自体は重要な点であるが、自身の経験を述べるだけで、その経験から金銭的インセンティブを導入することの是非をどのように導いたのかという考察が必要となる。

第2問

設問1

【出題の意図】

この設問は、日本の産業が持つ「強み」を理解し、それを図表のデータをもとに具体的に示す力を確認するためのものである。図表から適切な根拠を抽出し、自分の言葉で簡潔に整理し、まとめる力を求めている。これにより、受験者が与えられた資料を基に必要な情報を整理・分析し、わかりやすく表現する力を確認している。

【解答の傾向】

多くの解答者が、与えられた資料に基づき、日本の半導体産業における強みを素材や製造装置分野の高い技術力としての的確に捉えていた。一方で、一部の解答者は表1と表2の読み取りを逆に解釈し、日本の国際競争力の実態について誤った記述をしていた。正確にデータを読み取った解答では、フォトレジストやシリコンウェハなどの素材分野における日本の優位性や、製造装置での高いシェアを挙げたものが多かった。

設問2

【出題の意図】

この設問は、日本のグローバル競争力を向上させるための課題を発見し、その解決策を具体的かつ論理的に提案する力を確認するものである。特に、図表から得られるデータを活用しつつ、独自の視点を加えて考察を展開する力を求めている。また、課題と提案の間に一貫性があり、説

得力のある施策を組み立てられるかを評価した。これらにより、データ活用能力、論理的思考力、そして問題解決のための提案力を総合的に確認した。

【解答の傾向】

設問 2 では、表 1 や表 2 を基に日本の国際競争力の低迷を的確に示しつつ、図 1 の半導体市場の成長に注目し、現状をまとめた解答が概ね多かった。しかし、グローバル競争力を高める具体的な方法については、独創性や現実性に欠ける解答が目立った。また、「シェア」という用語を誤って使用している解答も若干見られた。「市場占有率」とは異なり、「共有」といった意味で使用されている例があり、用語の適切な理解に基づいていない解答であった。一方で、データを根拠に現状を正確に把握し、海外企業との協力体制やサプライチェーン強化の重要性に言及した優れた解答も見られた。

「図 2 一般的な半導体の製造工程」の出典について：

許諾番号 2024-152: 東洋経済新報社が記事利用を許諾しています。

©東洋経済新報社 無断複写転載を禁じます。